MAIL Order List 2026-#4 （2026 年 11 月 14 日作成）

https://www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com
email: tambour@ya2.so-net.ne.jp



（List 2026-#4 紙版使用表紙ジャケット）
MARK ERELLI:Spring Green(USA)

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
Ａ￥１９８０(税込み¥2178)　Ｂ￥２１８０(税込み¥2398)
Ｃ￥２３５０(税込み¥2585)　Ｄ￥２５８０(税込み¥2838)　Ｅ￥２８８０(税込み¥3168)
Ｘ￥４８０(税込み¥528)　Ｙ￥９８０(税込み¥1078)　Ｚ￥１４８０(税込み¥1628)
※発売年が 10 年以上前の商品は検品してお届けします。

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２１０円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律６６０円。
※代金引換送料（郵送）：610 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋３５０円。
※お支払いは商品お受け取り後で OK です。振込先を記載したメモをお入れして先に商品をお届けします。

【ご注文はできるだけ 11/30 までにお願いします】
にてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●お問合せはメールにてお願いします。



タムボリンの秋

（選りすぐり秋の夜長の通販リスト）
*少数精鋭、選りすぐりのリストになったかと思います。多くの方が予約購入済みの Eric Andersen 初来日ツアー 50 周年記念盤”Welcome To Japan”（予約販売のみで今年の販売数 No.1!）を筆頭に SSW 関係もトラッド関係も充実したリストになったかと思います。
*紙版の表紙は季節違いの春。その訳は Mark Erelli のアルバムのコメントに書いています。秋に「春気分」。このアルバムも素晴らしいですよ。
*クリックポストの値上げに伴って、CD（何枚でも）の**送料を 210 円に値上げ**させて頂きます。CD 一枚の場合、ゆうメール（土日配達なし）を使用する場合が多くなります。

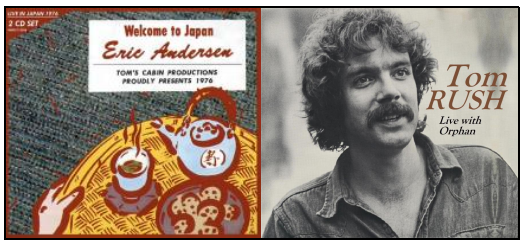
（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 12 月 31 日まででＯＫです。

USA, Canada, UK & Ireland, England, Scotland, Ireland, Europe 他

あとがき

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

[CD/USA{Reissue,Old Recording}]



(Eric Andersen)　　(Tom Rush)

*ERIC ANDERSEN:Welcome To Japan　¥3180(税込み¥3498)
(1976 年、エリック・アンダースン初来日ツアーをしたときのライヴが CD 二枚組で発売。実際に聴いてみて、あの時のライヴはこんなにも素晴らしかったのかと思うほど、唄よし、ギター伴奏よし、ピアノ伴奏よし、音よし、会場の雰囲気よしそして彼の人柄よしの恐ろしく内容の濃いエリック・アンダースンのライヴだ。とりわけディスク 2 の素晴らしさ筆舌に尽くしがたい。
既に”Blue River”と共に宝物になった。収録曲は各 8 曲の計 16 曲。1976 年/2026 作。New Shot)
※複数枚予約される方が何人かいらっしゃいました。３枚以上ご注文の場合、一割引き・送料無料でお受けします。
※私め船津が本作の発売に合わせて、エリック・アンダースンにインタビューしました。ご購入の方皆様に差し上げます。

「まさにあの夜、観客が聴いたそのままの音です」(Eric Andersen)
【エリック・アンダースンのニューアルバム”Welcome To Japan”発売記念インタビュー】（聞き手：船津潔）
アルバム『ブルー・リバー』誕生の経緯
曲「ブルー・リバー」誕生の話
初来日公演にまつわる話や日本の印象や日本人観客の印象や数々の思い出話
新作アルバム"Welcome To Japan"について

2012 年の「Billboard Live 東京」でのコンサートのこと
今後の活動について
旅行者として日本で訪ねてみたいところ
ディランの自伝的映画映画"A Complete Unknown"の感想
初来日ツアー全スケジュール表
*ERIC ANDERSEN:Blue River Live in Tokyo　　D
(Eric Andersen が 2012 年に日本で行ったライヴ。音質もよし、
ライヴの雰囲気もよし、Eric Andersen のヴォーカルもよし。
鳥肌立つライヴ。全 14 曲。2012 年/2025 作。New Shot)
※1972 年の"BLUE RIVER"発売 40 周年を記念して 2012 年に東京で録音されたエリック・アンダースンのライヴ・アルバム。"BLUE RIVER"発売から 40 年後、日本の有名な会場であるビルボードライブ東京のステージに魔法が戻ってきました。美しい妻の Inge とイタリア人ヴァイオリニストの Michele Gazich を伴奏に、エリックは 1972 年のアルバムが当時も今も成し遂げたことに匹敵する鳥肌が立つようなパフォーマンスを披露。傑作は決して古びません。芸術は古びません。エリック・アンダースンが永遠の美を作り上げました。それは事実です！東京のステージで、エリックは彼の膨大な作品の中からオリジナルの"BLUE RIVER"には収録されていない５曲を追加でうたうのが適切だと感じました。それらもこの 14 曲入りの CD に収録されています。(New Shot Records のサイトより)
*TOM RUSH:Live With Orphan　　D
(何となんと Tom Rush の 1974 年、NY 州の My Father’s Place で Orpahn～Eric Lilljequist,Dean Adrien,David Conrad,Bobby Chouinad～をバックに従えて行ったライヴ。1974 年と言えば、個人的大好きな”Ladies Love Outlaws”がリリースされた年。嬉しいことにそのアルバムからの曲が 6 曲収録。Orphan と言えば Jonathan Edwards のバック・バンドで知られるが、本ライヴでは Tom Rush が最も脂がのっていた時期の彼の唄を彼らは Eggs Over Easy のようなパブロック風ロックでばっちりバックアップ。あの時代に夢中になった Tom Rush の唄がリアルに蘇る。彼の「ベスト・アルバム」と言える内容だ。かつて夢中になって聴いた曲が次から次。Jackson Browne というまだ無名だった SSW のことを知ったのは Tom Rush のアルバムだった。多くの SSW の名曲を教えてもくれたっけ。全 15 曲。1974 年/2026 作。New Shot)
*FLYING BURRITO BROTHERS
:Live At The Bottom Line NYC 1976　　D
(1976 にニューヨークの Bottom Line で行ったライヴ音源からの全 14 曲。メムバーは、Joel Scott Hill,Gib Guilbeau,Skip Battin,"Sneaky" Pete Kleinow。1976 年/2022 年。Liberation Hall)
*FLYING BURRITO BROTHERS
:Live In Amsterdam 1972　　¥4280(税込み¥4708)
(Rick Roberts{ヴォーカル、ギター},Byron Berline {フィドル、ヴォーカル},Roger Bush{ベース、ヴォーカル}, Alan Munde{バンジョー、エレキギター},Kenny Wertz{ギター、ヴォーカル},Eric Dalton{ドラムス},Don Beck{ペダル・スティール}の珍しい顔ぶれの Flying Burrito の 1972 年 1 月 14 日のライヴを収録した二枚組。全 29 曲{内ボーナストラック 5 曲}。1972 年/2024 作。Liberation Hall)
*LIVINGSTON TAYLOR:The Early Years (1970-1977)　　D
(Livingston Taylor の初期のアルバム三枚、"Livingston Taylor" {1970 年}から８曲,"Liv"{1971 年}から５曲,"Over The Rainbow"

{1973 年}から６曲の全 19 曲をピックアップしたコンピレーション。1970 年,1971 年,1973 年/2021 作。Whistling Dog)

*DAVID MUNYON:Code Name:Painter D

(David Munyon の最初期、1994 年イタリアでのギター弾き語りライヴ。彼の唄は感性豊かかつ滋味豊かで、ヴォーカルには静けさのなかに悲喜こもごもな深い味わいがある。全 11 曲。1994 年/2026 年。New Shot)

*ROD PICOTT:Ville Lumiere Promenade D

(Rod Picott は本作を除き 2001 年から自身のレーベルから 16 枚ものアルバムをリリースしている今も現役の SSW。本作は 2005 年、Rod がドブロ＆ラップ･スティールの名手 Matt Mauch をお伴にしてのフランスはパリでのライヴで 21 曲収録。感情を押し殺し、ボソボソとうたう彼の唄、その不思議な物語の世界に引き込まれる。「あまりにも知られていない SSW の至宝の一人」{"No Depression}。2025 作。New Shot)

*JACK HARDY:Southern Comfort D

(Jack Hardy{1947-2011}が 1988 年にイタリア南部のコゼンツァで行ったライヴ。全 16 曲中未発表曲 9 曲。1988 年/2025 作。New Shot)

*JACK HARDY:Live On Stage In Italy C

(1993 年に Jack Hardy がイタリア公演を行ったときのライヴ。全 17 曲中８曲が未発表曲。1993 年/2023 作。New Shot)

*CALVIN RUSSELL:Equal Love C

(テキサス･オースティン出身の SSW の Calvin Russell{1948-2011}の 1997 年イタリアでのライヴ。T.V.Zandt 作の二曲を含む全 16 曲。1997 年/2025 作。New Shot)

*TOM OVANS:When The Dice Began To Roll C

(Tom Ovans の 1993 年イタリアでのライヴ。全 21 曲。2025 作。New Shot}

*JAMES TALLEY:Live From The Vaults C

(オクラホマのタルサ出身の SSW、James Talley の 2002 年イタリアでのライヴ。2025 作。New Shot)

*SAMMY WALKER:Days I Left Behind C

(1986 年、Sammy Walker のイタリアでのギター弾き語りライヴ。全 19 曲。化粧なし、スッピンの Sammy Walker ソング。ギターをお伴にし、Sammy Walker 調でうたう彼の唄は優しく耳に心地よい。1986 年/2024 作。New Shot)

*JEFF BLACK:Bless My Soul / Live in Italy C

(ナッシュビルを拠点に活動する SSW の Jeff Black の 1996 年イタリアでのギター弾き語りライヴ。ギターの弾き語りでうたう誠実な彼の唄を聴くと「昔は良い SSW がいたなぁ」とつくづく思ってしまう 19 曲。2025 作。New Shot)

※Jeff Black はレナード･コーエンのバリトン瞑想とタウンズ･ヴァン･ザントのルーツ方言を持つ吟遊詩人。(New Shot Records のサイトより)

*DIRK HAMILTON:HALFsexLIVE C

(2001 年イタリアでのライヴ。全 14 曲。伴奏者は Eric Westphal{ベース},John Powell{ドラムス}David Hammond{リード･ギター}。彼のアクの強いヴォーカルは健在なうえに、バンドとのコンビネーションはバッチリ。それは Bob Dylan がギター弾き語りからフォーク･ロックに転身したときのフォーク･ロックのような

真っ向勝負のフォーク･ロック。圧巻の全 14 曲。2024 作。New Shot}
*RANDY BURNS:Live At Jocko's E
(1976 年 2 月 14 日、Jocko Sullivan's での弾き語りライヴ。全 17 曲。かなりの稀少盤。サイン入り。スリムケース仕様 CD-R。1976 年/2011 作。WildCat)
*RANDY BURNS:Hobos And King E
(Randy Burns with Rob Taube{ピアノ、ベース)による 2010 年作。しみじみとした味わいの Randy Burns の世界。名盤レベル。これも稀少盤。全 12 曲。CD-R。Randy Burns)

[CD/USA{Folk、Rock}系]



(Mark Erelli)


(Alan Gerber)


(Kelly Hunt)

*MARK ERELLI:Spring Green D
(秋にすがすがしい春の音楽。実は今年の春に仕入れ･販売を目指していたが、本人から「店売りはしない」の返事。あきらめきれず再交渉して、季節は巡って秋の販売が実現！Mark Erelli と言えば、主に 1980 年代、Signature からリリースされた諸作以来。本作は 14 枚目のソロ･アルバムらしい。年齢は 52 歳。もうヴェテラン SSW になった Mark だが、久々に聴く彼の唄はギターの弾き語り風からラップ＆スティール･ギター、エレキ＆アコギ、ピアノ、ドラムス編成のバンド編成まで、甘味のある声と共に「新緑」の輝きを帯びていて、若々しくすがすがしい。これぞ「ヒューマン･ソング」と呼びたくなる素晴らしい SSW アルバムだ。全曲を通して浮遊する Rich Hinman のラップ＆スティール･ギターが本作の「新緑気分」と「夢うつつ気分」を高めてもいる。2026 作。Mark Erell)
*ALAN GERBER:The Well （サイン入り） D
(スワンプの名盤”The Alan Gerber Album”{1971 作}から 55 年。Alan Gerber の新作はスワンプ～南部ロック志向ロックの力作。発売時 79 歳とは思えない張りのあるヴォーカル{アラン･ガーバー節健在！}と娘でシンガーの Hannah Gerber 他による女性バックグラウンド･ヴォーカルを配したブルース、ソウル、R&B 色を帯びたロックは、Alan が Alan 自身のルーツ音楽に真正面から対峙し、ありったけのエネルギーを注いで体現したもの。彼はカナダのケベック州に住んでいるが、よくもこれだけのオールド･スタイルのロックを演れるミュージシャンを集められたものだ。彼の底力に乾杯！2026 作。Yumen Music)
*ALAN GERBER:The Boogie Man A
(在庫 3 枚。1999 作。Yumen Music)
*KELLY HUNT:Requiem For A Sleepless Night D
(メンフィス出身の女性 SSW、Kelly Hunt{ギター、ギター、バンジョー}の新作で三枚目。Dirk Powell をプロデューサーに迎え彼のスタジオ「サイプレス･ハウス」で収録された本作は、まるで”Kelly Hunt with Dirk Powell”のデュオ･アルバムとも言え

るほどKellyの唄にDirk Powellが終始丁寧な各種アコースティック楽器＆ヴォーカルで寄り添う。Kellyの眠れない夜の夢うつつな唄にアメリカン･ルーツな香りを放つアコースティック･サウンドが見事に調和。その上にDirk Powellの娘のAmeliaがハーモニー･ヴォーカルで寄り添う。何かとてもアットホーム。2026作。Compass)

※Lucinda Williams,Nanci Griffithそして広範なアメリカーナ/ルーツ･ミュージックの伝統を愛する人々にとって本作はKelly Huntのこれまでの作品の中で最も完成度の高い一枚と言えるでしょう。情緒的で親密そして紛れもなく彼女ならではの個性が刻まれた本作は、ジャンルの枠を超越し、過去と現在、旧世界と新世界の狭間に生じる緊張感の中を巧みに進んでいきます。（Compass Recordsのサイトより）

*NATHAN EVANS FOX:Heirloom D

（ノースカロライナ州出身のSSW、Nathan Evans Fox{ヴォーカル、ペダル･スティール、アコギ他}の新作。今どきこんなドスの利いたヴォーカルと泥臭いフォークやロックと出遭えるとは！そのヴォーカルも唄の曲調も、ぼくの耳にはJackson Browne風に聞こえるのだが、シンガーとしての資質はJackson Browneというより Van Morrisonやルーツロッカーのタイプだ。彼の女性バッキング･ヴォーカルを伴った深みのあるフォーク～ロックは文句なしに親近感。2026作。Free Dirt)

*TUCKER ZIMMERMAN:Dream Me A Dream C

（ベルギーを拠点に活動していた米国人SSW、故Tucker Zimmermanの ラスト･アルバム。齢を重ねたTuckerのヴォーカルは渋くかつ穏やか。彼 の夜空の星座の物語や広大な空想物語やヒッピー時代など若かりし頃の回想等々、彼の夢馳せる唄の何と心に響くこと！彼の唄に寄り添うJackie Oatesと奥様のMarie-Claire Zimmermanのハーモニー･ヴォーカルがとても優しい。w.Jackie Oates、Marie-Claire Zimmerman、Nicholas Holton。CD-R。2026作。Big Potato}

※ご購入の皆さまに歌詞の対訳(船津)を差し上げます。

*DIRK POWELL:Wake D

（ヴェテラン･フィドル＆バンジョー奏者でSSWののDirk Powellの新作。アメリカの白人系ルーツ･ミュージックの侘び寂び感のある音楽からロック調まで多様な音楽を柔軟に創作した上で、彼の唄は柔らかな感性全開で人間味がある。多様なアメリカン･ルーツミュージックを操り、船旅の思い出、いとこのアルバムを制作した思い出、初恋の思い出、第二の故郷ルイジアナの思い出、ルイジアナから南の旅の思い出、離ればなれになった恋人の物語り等、人生の悲喜交々を回想するようにうたっていて、心に響く。ゲスト:Rhiannon Giddens,Darrell Scott,Kai Welch,Amelia Powell,Sophie Powell他。2026作。Last Music Co)

※ご購入の皆さまにDirk Powellが書いた曲目解説の対訳(船津)を差し上げます。

*BUCKY LINDSEY & LISA BEST

:The Gulftone Recordings ¥3180(税込み¥3498)

(Dan Pennがプロデュースを手がけたBucky Lindsayの2002年作"Back Bay Blues"{全12曲}とLisa Bestの2005年作"Plain Jane In A Mustang"{全12曲}の二枚組セット。w.Dan Penn,Spooner Oldham,Bucky Lindsey,Carson Whitsett,Lonnie Mack他。2002年,2005年/2026作。Gulftone/Last Music Co)

*JEFFREY MARTIN
:Alive July 25,2025 ¥3480(税込み¥3828)
(当店利用者には説明不要のSSW､Jeffrey Martinの二枚組ライヴ盤。過去4枚のアルバムからの曲に未発表曲と新曲それにNeil Young作"Out On The Weekend"{"Harvest"の一曲目収録}を加えた全23トラック{18曲}。ギターの弾き語りによるJeffrey節は最高潮。2026作。Fluff And Gravy)
*ALENA DIANE:Who's Keeping Time? D
(若い頃からKaren Dalton風の渋い唄は格別だったが､本作では唄が自然体で伸びやか。バンドのロックも自然体で何とも心地よい。3曲目にKaren Daltonの名盤と同名の"In My Own Time"という自作曲が収録されているが､Karen Daltonのそれとは味わいは異なるものの､ルーツ志向の､独自の素の味わいでは通じ合う。聴くほどに味わいが増す。2026作。Fluff And Gravy)
*GREAZY ALICE:As Times Goes By D
(リード･ヴォーカル＆ギターのAlex Pianovichとハーモニー･ヴォーカルのJo Morris嬢にドラムスのLee Garciaとベースの Will Repholzの四人編成だが､このデジタルの時代男女二人のヴォーカルもドラムスもベースもとにかくノホホーンとして緩い。寝そべってボケーッと聴いていたくなるような音楽。聴けば聴くほど病みつき。2026作。Loose)
*MIKE DELEVANTE:September Days D
(The DelevantesのBobとMike兄弟のMikeの最新作。リッケンバッカー12弦の輝くサウンドをフィーチャーしたByrds風フォーク･ロックと､高齢のはずなのに青春まっただ中の明るさと陰りと甘ずっぱさのあるMikeのヴォーカル。Roger McGuinn､Byrdsそして Every Brothersファンはノックアウト間違いなしの胸キュンのフォーク･ロック。それらのファンそして西海岸ロック･ファンにとって最高の若返り剤！2026作。New Shot)
*VIV & RILEY:Imaginary People C
(マルチ楽器奏者でSSWのVivian Levaと同じくマルチ楽器奏者でシンガーのRiley Calcagnoの男女のフォーク･デュオ。二人の歌唱スタイルは古臭いフォークでありながら､マルチ楽器奏者のテクとアイデアを活かし､伝統的でありかつ多彩でポップ。と同時にノスタルジックなムードを作りだしている。二人は古いバラッドや伝統的な物語をリメイク等して､米国トラッド＆フォークを超えた独自の新感覚の音楽を活き活きと創作。2023作。Free Dirt)
*BURRITO BROTHERS:Together B
(ヴォーカルもヴォーカル･ハーモニーもサウンドもあまりにも美味しすぎる新生Burrito Brothersの常若のカントリー･ロック。2023作。Store For Music)

[CD/CANADA]
*DAVID WIFFEN:Timeless Songs ¥2680(税込み¥2948)
(再入荷。在庫二枚。副題"Unreleased Stage & Studio Recordings 1974/93"。全11曲。1993年録音の最初の4曲ではMurray McLauchlanがピアノ伴奏。1974年録音の5曲はフェス･ライヴ。大半がCBCラジオ音源で音質も良い。心はあの頃に。2024作。New Shot)

*MAMA'S BROKE:Reunion D
(Amy Lou Keeler{ヴォーカル、ギター、バンジョー}とLisa Maria{ヴォーカル、フィドル、マンドリン他}の女性デュオ"Mama's Broke"の新作。10年以上にわたり各地を旅しながら独自のスタイルを築き上げてきたというMama's Brokeの音楽はカントリー風味のサウンドも二人のソロ及びデュエットによる唄も、深くルーツ志向で、その味わいは1970年代のカントリーフォーク系女性SSWアルバムの名盤の趣。2026年ベスト・アルバム候補。2026作。Free Dirt)
*MEREDITH MOON:From Here To The Sea D
(Gordon Lightfootの娘でSSW&バンジョー奏者、Meredith Moonの2025年作。Meredithは一聴投げやりな唄は白人系フォークのルーツの味わいをにじませ、音楽スタイルも自身が爪弾くバンジョーをフィーチャーしたアパラチアン・オールドタイムを基礎にして、独自のフォーク、フォークロックを創作。プロデューサーのColin Lindenは南部志向色は控え目で、Colin自身がヴォーカルとギターで寄り添い、かつMeredithの個性に沿った白人系アメリカン・ミュージックの侘び寂びプラスαの音を活かす音作りで、Meredithの古びつつ骨のある真のフォークを引き立てている。ゲスト:Jerry Douglas他。2025作。Compass)
*MAE MOORE:Folklore Z
(発掘ＣＤ。環境保護活動家であり、有機農家そして画家でもあるという女性SSWのMae Mooreの2010作。アコースティック・ギターの弾き語りで語りかけるような唄は凄く魅力的。そうした音楽性をベースにジャズ風な味付けでしっとりしたジャズ風フォークとして結実。感性も曲のテーマもカナダ人らしい。結構胸キュン。Political License)
*RAY MATERICK:Life And Times A
(発掘ＣＤ。Warner時代{1974-1976年}と自主制作時代{1998-2003年}の音源からの二枚組。シングル盤ヒット曲"Emily"や初CD化曲２曲を含む全24曲。2003作。Warner Music Canada)
*IAN TAMBLYN:When Will I See You Again
+ Ghost Parade 税込み3800円
(廃盤。"When Will I See You Again"{1980作}と"Ghost Parade"{1988作}の二枚組。2002作。North Track)
*IAN TAMBLYN:Over My Head(1986作。North Track) C
*IAN TAMBLYN:Superior - Spirit And Light C
*IAN TAMBLYN:Side By Each(2013作。North Track) C

[LP/AUSTRALIA{SSW}]
*RUTH PARKER:Otherwise Occupied
(サイン入LP)¥4780(税込み¥5258)
(「ヴァシュティー・バニアン風」と薦められ、本人に連絡を取って目出度く販売が実現。。正にヴァシュティー・バニアン風に唄も伴奏も素朴で自由。彼女の唄も楽器の演奏も気負いがなく、気ままな感じなのが何とも心地よい。「あなたの藁ぼうきで私をかき集めて」とうたう荒唐無稽な１曲目や「今夜は世界との繋がりを絶ちたい」とうたうタイトル曲のほか、オーストラリアの海辺の暮らしから生まれた唄{サイクリングやドライブや船や海やビーチなどが舞台}は発想が自由で、楽しくもある。奇跡・輝石の逸

品。本人が環境に配慮してラップ包装なし{封無し}。2025 作。
Flippin Yeah)
※ご購入の皆さまに歌詞の日本語訳･対訳(船津)を差し上げます。

[LP/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]

*MARK FRY:Not On The Radar (The Demos)
¥4780(税込み¥5258)
(1972 年のデビュー･アルバム"Dreaming With Alice"から半世紀余り。本作は 2025 年 5 月に発売された同名アルバムのデモ音源アルバムで曲目曲順も同じ。それにデジタルのみのボーナス曲"Parallel Moon"を加えた全 11 曲。同名アルバムのお化粧を落としたというか、色彩感のあるギターの弾き語りによるシンプルな構成なのだが、このシンプルさが彼の夢想的で抒情的な唄の深い味わいを高めていて、心の奥底にやんわりと響く。齢を重ねてもなお、感受性豊かな唄に深く感動。奇跡の逸品。ブリティッシュ･フォーク/シンガー＆ソングライター･アルバムの名盤誕生。限定発売。2025 年 12 月作。Second Language Music)
※Mark Fry 作成の歌詞カード(A4 用紙 6 ページ分)と Mark Fry 自作の絵はがき(サイン入り＆ショートメッセージ付き)を差し上げます。
*CHRIS BRAIN:Red Sun Rising ¥4780(税込み¥5258)
(サイン入り。Chris Brain の四枚目。2026 作。Big Sun)
※歌詞の対訳＋各曲のギターのチューニングをプリントして差し上げます。

[CD/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]



(Kieran & Annie)
*KIERAN GOSS AND ANNIE KINSELLA
:The Song Your Heart Is Singing E
(Kieran Goss & Annie Kinsella の新作。Kieran Goss のアルバムをまともに聴くのは 1992 年の Frances Black とのデュオ･アルバム以来だろうか。あれから 30 数年。驚くことに、Kieran Goss の唄の優しく穏やかで深い味わいは不変。相方の Annie の唄は女性的な優しさや包容力があって、ソロやデュエットでの味わいが深い。ある意味 Frances Black & Kieran Goss の 2026 年版的男女デュオの魅力と経験を経て獲得した円熟味がある。プロデューサーでもある John Doyle が終始美麗ギターを奏でていて、ギターの音色が何とも心地よい。ゲスト:John McCusker。珠玉のアイリッシュフォーク/SSW アルバム。22 ページのブックレット付。秋の夜長に最高の一枚。2026 作。Cog Comunications)
*IAIN MATTHEWS & THE WILD VERBAND:Return to Tupper Street(Valley Hi Reimagined) C
(Iain Matthews がバンドを組んで 1973 年作の名盤"Valley Hi"

を新たにレコーディング。言うなれば"Valley Hi"の 2026 年版。オリジナル版と 2026 年版の違いは、例えばディランの唄なら、アコースティック・ヴァージョンと Bob Dylan & The Band のフォーク・ロック・ヴァージョン、或は Fotheringay のフォーク・ロック・ヴァージョンほどの違いがあって、それに伴って驚き、その後感動がある。2026 年版は Iain のヴォーカルは自信に満ちて堂々とし、バンドの音楽は骨太で底力があって活力がみなぎっている。彼らが体現した音楽は、Mike Roelofs のオルガンが"Southern Comfort"な味わいを添えるなど、南部志向ロック風フォーク・ロック。オリジナル版は「青春のうつろい」が魅力だったのに対し、2026 年版は「老練の不屈さ」が魅力か。2026 作。MIG Music)

*NIALL McCABE:Stranger C

(メイヨー沖のクレア島出身の SSW の Niall McCabe。本作は彼の二作目。アイルランド出身の SSW としては近年ではピカー。Paul Brady や Van Morrison のヴォーカルのニュアンスを保持した彼のヴォーカルはすこぶる魅力的な上に、島での人とのふれあいの中から生まれた悩み多き青春の唄～自問自答的、自省的～の数々は、島の空気感とともに感情移入が豊かで、深く心に響く。2025 作。Niall McCabe)

※ご購入の皆さまに本人がネットで公開している"Crescendo","Stranger","I' m Wrong"三曲の英語歌詞と対訳(船津)を差し上げます。

*BROWN HORSE:Total Dive D

(Patrick Turner{ヴォーカル、ギター},Nyle Holihan{ギター、ベース他},Emma Tovell{ラップ&ペダル・スティール他},Rowan Braham{オルガン、ピアノ}にドラムスの Ben Rodwell とバッキング・ヴォーカルの Neve Cariad を加えた米国カントリー&ルーツロック風バンド"Brown Horse"の新作で三枚目。Patrick の微妙に揺れるヴォーカルは絶好調だし、荒削りで重厚なロックも絶好調。2026 作。Loose)

*DAVID LEWIS:No Straight Line A

(発掘ＣＤ。30 年前のベストセラー。Andwella の David Lewis ではない心優しい SSW の David Lewis の 1995 年作。パッケージには「Nick Drake と Robin Williams の間の英国フォークの伝統の系譜に連なる際立った唄たち」のシール。爽やかなアコースティック・サウンドと David の内省的な唄はやんわりと心に響く。Produced by John Wesley Harding & Scott Mathews。DEJADISC)

*SIMON HAWORTH:Taking Routes A

(発掘ＣＤ。Jez Lowe の Bad Pennies のメムバーでもある SSW でギター奏者の Simon Haworth の 2003 年作。唄もアコギの音色も英国の香りに充ちたブリティッシュ・フォークの逸品。w.Steve Lawrence,Andy May,Rachel Unthank 他。「今年最高のリリースのひとつ」{Living Tradition}。Fellside)

*JOHN B SPENCER:Left Hand Of Love A

(1998 年リリースの John B.Spenser[1944-2002])のコンピレーション・アルバム。全 12 曲＋ヒドゥントラック 1 曲。John B の唄は飄々として渋く、いわば米国ルーツ・ロック志向の二流センスの英国ロック。フォーク、ブルース、テックスメックス、パブロック、カントリー・ロック、オールドタイム等米国ルーツ・ロックの旨み成分

たっぷり。コンピだが、一枚のアルバムとして完結。Round Tower)

[CD BOOK/ENGLAND]



(Peter's Field)

*SEAN COONEY WITH ELIZA CARTHY,SAM CARTER
& JENNIFER REID:Peter's Field ¥6300(税込み¥6930)

(ほぼA4判の豪華ハードカバーCDブック。Young'unsのメムバーでシンガーのSean CooneyとEliza Carthy{ヴォーカル、フィドル},Sam Carter{ヴォーカル、ギター}の演唱にJennifer Reidのナレーション、そしてBen Nichollsのベース、バンジョー他による全26トラック。三人の各シンガーのトラディショナルなシンギング＆演奏それにナレーションもそれぞれにドラマティックで英国の歴史ドラマを劇場で観ている気分に襲われる。音楽のみならず本も読み物として優れている。2026作。Hudson)

※Sean Cooneyの新作"Peter's Field"は英国労働者階級の歴史における極めて重要な出来事の一つ「ピータールーの虐殺」を記念する作品。本作は力強く創造的な手法でその歴史を呼び起こすものです。Sean Cooneyは英国フォーク・シーンにおいて最も尊敬を集めるミュージシャンの一人であり、The Young'unsのメンバーとしても知られている。彼はこれまで語られてこなかった労働者階級の物語を感情の深みと豊かな音楽性そして現代的な意義を込めて、説得力豊かに描き出している。(Hudson Recordsのサイトより)

[CD/ENGLAND]



(Sean & Grace)

*SEAN SWEENEY & GRACE SMITH:Morning of May D
(Bellowhead,Leveretのメムバーで屈指の英国フィドラーのS.SweeneyとGrace Smith Trioのリーダーで Folkworks Summer Schoolsを主宰するフィドラーでヴィオラ奏者のG.Smithのデュオ･アルバム。二台のフィドルによる何とも胸すくイングランド･スタイルのフィドル音楽だ。片や宙を舞うフィドルを奏でるや、片や低音で自在なリズムを奏で、あるいは二台で蝶のように軽やかに舞いもする。二人が奏でる音楽はChris Wood & Andy Cuttingが創作した音楽と重なる。ワンランク上の英国トラッド永遠の響き。珠玉の全13曲。2026作。Hudson)

*SAM CARTER:Sings Nic Jones D
(副題"Live At Celtic Connections"。BBCのフォーク賞受賞歴のあるSSWでありギタリストのSam Carterのギター弾き語りのライヴで、"Nic Jonesソング集"全13曲。イングランド･スタ

イルのフィンガーピッキング･ギタリストとして評価の高い彼のNic Jonesスタイルのギターはそれだけで Nic Jonesの面影を放ち､英国トラッドの香りをふりまく｡Samの伸びやかな声が素晴らしく､聴き親しんだNic Jones風ギターと曲の魔力に後押しされて､Sam Carterによる｢ニック･ジョーンズ･ソング･アルバム｣として確かな輝きを放っている｡パッケージは開封簡易収納ジャケット仕様{LPジャ ケット風}と手抜きだが､音楽は絶品｡2026作｡Sam Carter)
※CDには歌詞カードが付いていません｡タムボリンで作成の歌詞カード(英語版)を差し上げます｡
*CHRIS MANNERS:Bar Doors And Bang The Shutters Down B
(英国のSSWでギター奏者のChris Mannerの四枚目｡1970年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク･シンガーが産声を上げ､20世紀後半の英国フォーク･シーンを盛り上げてきたが､彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて､時代錯誤感に襲われる｡それほど彼のシンギングとギターは英国フォークのコアの魅力を純粋に保持していて､その上で独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花開かせている｡15曲｡ゲスト:Jon Loomes｡2024作｡99YRCD04)
*SDP:Vol Two C
(SDP{Sandy Denny Project}はTradarrのMarion Fleetwood, Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens＋Sally Barker{再結成Fotheringay,Poozies}のスーパー･フォーク･ロック･バンド｡本作は二枚目で､Sandy Dennyソングを彼ら流に新たな英国フォーク･ロックで創作したもの｡鳥肌立つ素晴らしさ｡2024作｡SDP)
*DAMIEN BARBER･MIKE WILSON:Under The Influence Z
(発掘ＣＤ｡Damien Barber{ヴォーカル､コンサーティーナ､ギター}とMike Wilson{ヴォーカル}の二人のトラッド･シンガーによる1970年代英国トラッドの名盤を思い起こさせる英国トラッドの快作｡｢二人は何よりもまずシンガーであり､歌への情熱がアルバム全体を通して輝いている｡素晴らしい歌声､素晴らしいアレンジ､素晴らしい楽曲｡非常に優れたアルバムだ｣{Living Tradition}｡2009作｡Demon Barber Sounds)

[CD/SCOTLAND]



(Donald & Reo) (Rachel Hair)

*DONALD WG LINDSAY & REO GEDDES
:Honeymoon Bridge ¥3180(税込み¥3498)
(Donald WG Lindsay{ヴォーカル､本人発明のチャンター使用のスコティッシュ･スモールパイプス}とReo Geddes{フィドル､ピアノ}のCD二枚組デュオ･アルバム｡知らないところに凄いトラッド･シンガーがいるもんだ｡Donaldの声はDick Gaughanの声を骨太にした感じで､その声でスコットランドのトラッド･スタイルでシンギングするのだから､恐れ入ってしまう｡しかも彼が

奏するバグパイプはよくうたうし、自身の唄とデュエットもする。二人の初共演は 2015 年。以来、家族ぐるみの付き合いとか。Reo のフィドルは Donald のバグパイプとシンギングとすっかり意気投合。いやはや驚きのスコティッシュ・トラッド・アルバムだ。フェアポートで馴染みのスコットランド民謡”Sir Patrick Spens″は 8 分 2 秒に及び喉を震わす。録音は Nick Turner の Watercolour Music のスタジオでのライヴ・レコーディング。全 16 トラック{21 曲}。2026 作。DL002)

*RACHEL HAIR:Hello Harp D

(もうヴェテラン・ハープ奏者になった Rachel Hair の新作は初心回帰のスコティッシュ・ハープ{34 弦スターフィッシュ・デザイン}による完全ソロ・ハープ・アルバム。演奏経験を重ねれば重ねるほど、創作的な方向へと進む演奏家が多い中で、Rachel はスコットランドやアイルランドの曲等をその基本的な演奏に立ち返って、見事な演奏を披露する。初心回帰だが、一曲一曲の集中力が高く、すさまじく表情豊か。様々なタイプの曲がメドレーのように連なっていて、ハープ・ミュージックの魅力が新鮮かつ美しく創出されている。2026 作。March Hair)

※シュリンクラップ包装のない（封のない）CD です。

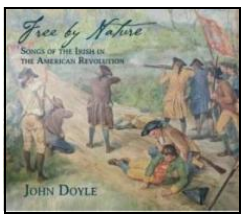
※このアルバムでは、スコットランドのクラルサッハという楽器の素晴らしさと、その多彩な表現力を存分に称えたかったのです。余計な飾りや複雑な演出は一切なし。ただただ、最高に素敵な音楽をお届けします！（Rachel Hair のサイトより）

*CALUM MARTIN:An Dealachadh Z

(発掘ＣＤ。スコットランドのゲール語 SSW の Calum Martin の 2010 年作。本作では Royal National Mod の″Gaelic Song″部門で金賞 受賞の Isobel Ann が大半の曲でソロ＆バッキング・ヴォーカルで参加。本作はトラッド調からフォーク調そしてフォーク・ロック調と音楽性の幅が広い。唄はゲール語と英語混在で、ゲール語の唄はゲール語歌詞に英訳が付いている。Ridge)

[CD/IRELAND 系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。



(John Doyle)



(Gatehouse)



(Cuas)

*JOHN DOYLE:Free By Nature D

(Solas を皮切りに、米英アイルランドのトップレベルのミュージシャンとの共演やトップ・グループの一員で活動し、近年はマイク・マクゴールドリック、ジョン・マッカスカーとのトリオでギタリストとしてのみならずシンガーとして頭角を表しているシンガー兼ギタリストの John Doyle の新作。John Doyle もギターとバッキング・ヴォーカルで参加した Andy Irvine の「ウディ・ガスリー」集に刺激を受けたか、アメリカ独立戦争に関わったアイルランド系の人々の伝承歌やバラッドを採り上げた意欲作。John はほぼ全曲ギター、ブズーキ等ギター系

楽器の弾き語りで、米国に伝わる唄に身を寄せ、自身のアレンジで独自のいわばアメリカに伝わるアイリッシ・トラッドを創作。柔和なうたいまわしは Andy Irvine に通じもするが、軽快で多彩なギター他を爪弾きながらうたう John の唄は端正で、英国フォーク的なデリカシーが宿っている。、英国フォーク・ギターからギターの道を歩み始めたという{昔本人から訊いた}John の基礎の音楽性と長年のトップレベルの活動がアイルランド系アメリカン・フォーク・ソングを新鮮に蘇らせている。広い意味でのアイリッシュ・トラッドの重要作。Maura Shawn Scanlin がフィドルで共演。曲目解説、歌詞付。2026 作。Yodelayhee)

※発売元が OPP 袋で包装した CD です。

※本作は、魅力的で説得力のある作品です。John Doyle の音楽のファンは彼の温かく思慮深いアプローチを気に入るでしょう。この 2 つの要素がアルバムをとても楽しめるものにしています。しかし、このアルバムの価値を高めているのは、彼があまり語られることのない物語を反映した素材を集めるために注いだ努力です。歴史ファンは、このアルバムを本当に気に入るでしょう。（Irish Echo Newspaper より）

*GATEHOUSE:Tríú D

（アイルランドを代表するトラッド・グループ”Gatehouse”～Rachel Garvey{ヴォーカル},John Wynne{フルート、ホイッスル},Jacinta McEvoy{ギター、コンサーティーナ},John McEvoy{フィドル},John Wynne{フルート、ホイッスル}～の待望の新作。本作は結成 10 周年という節目に発表されたアルバムで、アルバムタイトルの”Tríú”は"Third"の意。Rachel Garvey の清く凛としたシンギングも熟達した軽やかな演奏もすべてが心に響き心躍る。言葉なし。アイリッシュ・トラッド、グループ演奏の理想形。2026 作。Gael Linn)

※彼らは表現力豊かなボーカルと卓越した演奏技術を融合させ、アイルランドの伝統に深く根ざしながらも、新鮮で個性的な響きを持つ、豊かで情緒あふれるサウンドを創り出している。フルート、ホイッスル、マンドーラ、ギター、コンサーティーナ、フィドルによる見事な演奏が、伝統に根ざしつつも驚くほど独創的な、情緒豊かなサウンドを紡ぎ出している。神話や伝説、愛や喪失といったテーマを探求する「Tríú」、思慮深く想像力に富んだ音楽の旅へと聴き手を誘う。本作はアイルランドの豊かな音楽遺産に敬意を払いつつ、そこに彼ら独自の創造的な声を吹き込んだ作品となっている。(Gael Linn Records のサイトより)

*CUAS:Mo Naomhóigín Ó E

(Méabh Ní Bheaglaoich{ヴォーカル、アコ},Niamh Varian-Barry{ヴォーカル、フィドル他},Nicole Ní Dhubhshláine{コンサーティーナ、フルート},Kyle Macaulay{ギター、ブズーキ}から成るアイリッシュ・グループ”Cuas”の待望の二作目。彼らはアイリッシュ・トラッドの二大要素の「ダンスと唄」をライヴ・パフォーマンスするように活き活きと演唱する。様々なタイプのダンス曲はそれぞれに軽やかで小気味良く躍動的。リード・ヴォーカルのゲール語を含む Méabh の唄{内二曲は父親の故 Seamus Begley から教わった曲}はどれも心に刺さる彼らのアイリッシュはデダナン・スタイルのアイリッシュを民衆音楽の目線でさらに極めた最高のアイリッシュ。簡単な曲目解説{英語とゲール語}付。2026 作。Cuas)

※本作では、本能に訴えかけるような、生々しいサウンドを目指しました。私たちが音楽を学んだ、あの騒がしくも親密なパブでのセッションを彷彿とさせるような作品です。私たちは同じ部屋に集まり、セッションの時のように互いに向き合って演奏しました。そうすることで、それぞれの音が混じり合い、生き生きとした呼吸が生まれたのです。

このアルバムに収められた音楽、唄、そしてダンスが、皆さんの心にも響くことを願っています。（Cuas のサイトより）
*CUAS:Cuas C
（Cuas の爽快デビュー･アルバム。2024 作。Cuas）
*ANDY IRVINE:Devoted"(Songs Of Woody Guthrie) D
（サブタイトル通り全曲ウディの唄だが、アンディがブズーキやマンドーラを爪弾き、時にハーモニカを吹きながらうたえば、アンディ節に変色する。共演者は Ushers Island と Mozaik からの選抜メムバーという感じのアイリッシュ＆ケルティックミュージックの凄腕ミュージシャン達。共演者達はフォーク･シンガーとして初心にかえったかのようなアンディのひたむきな唄に寄り添う「伴奏とバッキング･ヴォーカル」に徹していて、アンデイの唄をより味わい深くしている。2026 作。The Last Music Co.）
※ご購入の皆さまに、ウディ/ガスリー研究の第一人者のウィル･カウフマンとアンディの共同解説による曲目解説の対訳（A4 用紙６ページ）をお付けします。
*DEIRDRE AND AOIFE GRANVILLE:Ceo Draichta E
（ディングル出身の Aoife Granville{フルート、ヴォーカル、フィドル、リコーダー}＆Deirdre Granville{ハープ、ヴォーカル}姉妹のアイリッシュ･アルバム。本作はハープとは相性の良いフルートとのデュエット曲のインスト曲とハープの伴奏による姉妹のソロ＆デュエットのヴォーカル曲を織り交ぜた構成で、姉妹のシンギングは Triona & Maighread クラスのヴェテランのトップ･トラッド･シンガーの味わいを醸し出している。ハー プ･ソロが一曲。その曲"Maidin Aoibhinn Aorach"はしんみりとした曲調が心に沁みる。20026 作。Deirdre & Aoife Granville）
*DEIRDRE GRANVILLE:Imram D
（発掘ＣＤ。ハープ{スローエアー}部門のオール･アイルランド･チャンピオンで Deirdre & Aoife 姉妹の Deirdre{シンガーでもある}の 2015 年のソロ･アルバム。伝統的ハープとクラシック･ハープの両方を学んだという彼女だが、本作はアイルランドの伝統音楽中心の選曲で、それもこだわりのある選曲で、アイリッシュ･ハープ･ミュージックとして深い味わいがある。ハープ･ソロにセッション･タイプの小グループ演奏そして一家に伝わるゲール語の唄と彼女の豊かな音楽性を一枚にまとめた印象だ。ハープの一音一音にアイリッシュ･スピリットが宿っている。2015 作。Deidre Granville）
*NIAMH O BRIEN:Ag Iompar Fuaime D
（CD ブック型 CD パッケージ。アイリッシュハープ奏者＆シンガー、Niamh O Brien のデビュー･アルバム。Niamh は伝統的ハープ奏者として、かつフォーク＆トラッド･シンガーとしても清楚な歌声が魅力的。加えて鳥のさえずりや生活の音を入れたり、亡き祖母の語りや言葉遊びにハープの伴奏を付けるなど創作音楽家として才能が豊か。一曲目はハープと Paddi Alice Benson のイリアンパイプスと Tommy Hayes のパーカッションと AI アコによるポルカ。ハープの早弾きが絶妙で、ハープとイリアンパイプス他によるアイリッシュ･トラッドの心髄に迫ったのち、彼女自身の記憶や思い出や記録からインスピレーションを得て、ハープと唄をフィーチャーし、創作したアイリッシュな「音の風

景」音楽が魔法のように展開する。心の 奥底に響くアイリッシュ。2026 作。Farpoint Recordings)

*CAITRIONA NI CHEANNABHAIN:Solos A

(発掘ＣＤ。トラッド･シンガーの Michael Mhaire Ghabhao Ceannabhain の娘でシャンノース･シンガーの Caitriona の 2011 年のソロ。w.Pat Coyne,Sean Keane,David Doocey,Stephen Doherty,Peter Gannon 他。Caitriona Ni Cheannabhain)

[CD/SWEDEN]



(Featuring Ulrika Boden))

*AHLBERG,EK & ROSWALL MED ULRIKA BODEN
:Ingen Storre Frojd I Varlden Ar D

(Ahlberg,Ek & Roswall のトリオと歌姫 Ulrika Boden のコラボによる新作。実質的には”Ulrika with トリオ”の今時貴重なスウェーデン発北欧トラッド･アルバム。百戦錬磨のトリオの、いわば王道を行く演奏は緩急自在で素晴らしく、その演奏に乗ってうたう Ulrika のシンギングはこれまた緩急自在で,今が絶頂期と思えるほど素晴らしい。各人がこれまでに培ったスウェーデンのトラッド･ミュージックの魅力を本作に詰め込んだ印象だ。今の時代にこんな素晴らしい北欧トラッド･アルバムを拝めるとは！歌詞･英訳曲目解説付。2025 作。DE001)

*ULRIKA BODEN:Ratt Nu Ar Det Pa Tiden B

(発掘ＣＤ。約 20 年前のベストセラー。今更説明の必要のない Ranarim のヴォーカルの Ulrika の 2004 年作の二作目。本作は彼女のオンゲルマンランド地方の豊かな音楽的源泉を掘り下げていて、Ranarim の仲間の Jens Engelbrecht{ギター},Anders Norudde{フィドル、フルート},Mikael Augustsson{アコ}を迎え、トラッド･ファンにとって理想の北欧トラッド･アルバムを創作。今聴いても感動の嵐。Drone Music)

*LJUS OCH LYKTA:Ljus Och lykta A

(三姫一太郎の四人組トラッド･バンド"Ljus Och lykta"の爽快デビュー･アルバム。曲目のほとんどはスウェーデン舞台芸術庁のアーカイブ。コレクションで見つけ出したトラッド曲だそうだが、彼らは若々しく自由闊達なソロ･シンギング＆ハーモニーで数々の伝統歌を生き返らす。伴奏楽器はフィドルとギター。スウェーデンのトラッドの香り立つフィドルが良い感じで北欧トラッド色を高めている。2022 年。Caprice)

*HOVEN DROVEN:Trad A

(Trad と題された Hoven Droven の 2021 年作。1989 年結成以来、30 年以上にわたってスウェーデン･スタイルのフォーク･ロックを果敢に創作してきた Hoven Droven の 30 周年記念アルバム的性格の快作。Heilo)

[CD/NORWAY{SSW}]

*JUNI HABEL:Evergreen In Your Mind C

(ノルウエーの SSW、Juni Habel の三年振りの新作で通算３枚目。前作"Carvings"は静かな衝撃作だったが、自身が爪弾く耳に心地よいギターの音色と物静かで夢見心地な彼女の唄は本作でも健在。唄はあこがれや夢見る世界や過ぎ去りし日の思いなどだが、その夢想的かつ詩情豊かな歌詞は彼女のヴォーカル＆音楽と見事に溶け合っていて、彼女独自の世界を創り出している。奇跡・輝石の逸品。「Nick Drake、Karen Dalton、Neil Young のファンなら、暖炉のそばで一人で過ごす夜のようなこの音楽作品を大いに楽しめるだろう」{The Times}。2026 作。Basin Rock)

※ご購入の皆さまに歌詞の対訳(船津)を差し上げます。

[CD/DENMARK{Irish}]

*BONEZONE:In Session Z

(発掘ＣＤ。2002 年、米国で開かれたコンテストのボーンズ部門世界チャンピオンの Yirdy Machar{ヴォーカル、ボーンズ、スプーン}の元に集まってアイリッシュ･セッションしたアイリッシュ仲間による 2007 年作。ボーンズをフィーチャーしたアイリッシュはセッションの楽しさ充満。Go')

[CD/LATVIA]

*RAHU THE FOOL:On The Dancefloor D

(一人抜けて二姫ニ太郎の四人組の Rahu The Fool～Pēteris Narubins{ヴォーカル、マンドリン、ストンプボックス}、Lauma Bērza{ヴァイオリン、ヴォーカル}、Ben W. Goldsmith{サックス、ウクレレ、ヴォーカル}、Evita Bambāne{ダブルベース、ヴォーカル}～の新作はライヴ･アルバム。彼らの音楽は彼らの言葉を借りれば「ジャグバンドの伝統に根ざし、アコースティック･サウンド、遊び心あふれる精神、ダンサブルな音楽とラトビア国内外の伝統的なダンス曲や冒険的なバラッドやオリジナル曲を融合」した音楽。彼らの米国のジャグバンドやブルースやジャズやカントリーとラトビア内外のトラッド＆ダンス･サウンドとをミックスした音楽は彼ら独自の大衆音楽レベルの異種交配娯楽音楽を創作していてメチャ楽しい。2026 作。CPL-Music)

[CD/ESTONIA,WALES]

*SILD:Tro Z

(Sild はエストニアの女性シンガーでフィドル奏者の Sille Ilves とウェールズのギター、ハモンドオルガン奏者の Martin Leaman のデュオ。Sille の極北的で神秘的なシンギング{トラッド･シンガーとしてトップ･クラス}は絶品な上に二人が奏でるトラッド･サウンドは厳かな深みがある。エストニアのトラッドとウェールズのトラッドとが彼ら流にナチュラルにブレンドされていてトラッド・アルバムとして秀逸。Produced by Ceri Rhys Matthews。2008 作。Fflach)

[CD/SLOVAKIA]

*NEHA!:Svetu D

(2020 年にスロバキアで結成された女性６人組多声ヴォーカル

{ポリフォニー}･グループの爽快デビュー･アルバム。アルバムタイトルの"Svetu"は"優しさ"の意。構成メムバーのシンガーはそれぞれが国内外で活動する個性豊かで優れたシンガー。本作ではスロバキアや東欧などに伝わる喜びに溢れた伝統歌が10曲収録。ブルガリアなど東欧の伝統的女性多声ヴォーカル･ミュージックのスタイルで、時折パーカッションやチェロやハープを交え、自由闊達に多層的にハーモナイズする。その精緻に構成された多層的ヴォーカル･アレンジは見事と言うほかない。2026作。CPL Music)

※Neha!は単なるヴォーカル･アンサンブルではありません。それは友情、勇気そして芸術的自由を映し出す生きた肖像なのです。それぞれに個性的で奥深く複雑な魅力を持つ6人の女性たち。彼女たちが織りなす歌声は境界を超え、人々の心に響く多声的なタペストリとなります。(Neha!のサイトより)

[CD/CZECH]

*BARBORA XU:The Garden Of Otava D

(チェコの女性SSWで、ハープ、カンテレ、中国の伝統楽器の古箏等の演奏家、Barbora Xuの新作で、通算二枚目。本作はBarboraが7年間暮らしたフィンランドのオタヴァ島にある人里離れたログキャビンで制作されたという。ハープ、カンテレ、古箏を爪弾きながらうたうBarboraはまるでフィンランドの森の精。森の不思議さや澄んだ空気感を内含した唄と伝統的な音色を秘めた音楽そして鳥の囀りは不思議な世界へと誘う。全てがピュアで音楽全体の鮮度が高い。滅多にお耳にかかれない精神性の高いマジカルな音楽だ。自己紹介、楽器解説、歌詞、曲目解説{英語･中国語}等付。2025作。Nordic Notes)

[CD/HUNGARY]

*KORPAS EVA:Szerelem Szerelem A

(発掘ＣＤ。「若き民謡芸術家」の称号を持つ、かつてハンガリーで引っ張りだこだったトラッド･シンガー、Evaの2010作。ハンガリーのトラッドとジャズの融合を試みた意欲作だが、突っ張った感じではなく、全体的に円やか。全18曲。FolkEuropa)

*KOLINDA:Forgotten Gods D

(Kolindaの2000年作。メムバーはKriszta Kováts{ヴォーカル}, Péter Dabasi{ヴォーカル、ﾏﾝﾄﾞﾁｪﾛ、ｶｳﾞｧﾙ他}, Dora Kovats{ヴォーカル、ヴァイオリン、フルート} Peter Koszegi{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ}, Lilla Vírhelyi{ヴァイオリン, Tibor Pongrácz{パーカッション}, Csaba Gyulai{パーカッション}, Endre Juhász{オーボエ}。女性シンガーのKriszta Kováts を迎え、汎東欧～西アジア的悠久感のあるKolinda流異種交配エキゾティック･ミュージックを創作。Pan)

※シュリンクラップ包装のない（封のない）CDです。

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe C

(北欧の魔性的トラッドを彷彿させるフォーク･ロック･グループ"Meszecsinkaの2019年作。彼らの深淵な野性味と無国籍でエキゾティックな音楽は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つOláh Annamaria嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。孤高のハンガリー発フォーク･ロック。CPL-Music)

[CD/UKRAINE]

*ЖИＢИ!(Mariana Sadovska & Vesna)
:You Should Live! D
(本作はウクライナの伝承歌とウクライナの詩人の詩に主に Mariana が曲を付けた曲から構成されているが､Mariana は現代詩の中にウクライナの伝承歌と同しような｢守護と癒しの力｣を感じたという｡Mariana の念ずるような唄は音楽的にはサーミ{ラップランド}のヨイクのような印象だが､伝承歌やフォークの域を超えて心に刺さる｡土俗性を強烈に帯びた Mariana の唄は真にポジティヴだ｡音楽はジャンルを超えて柔軟で Mariana の渾身の唄と融合･一体化している｡現代の"民族"音楽｡歌詞原詩･歌詞英訳･曲目解説等付｡2026 作｡CPL-Music)

[CD/GYPSY]

*JULIA KOZAKVA - MANUSA II D
(久し振りに聴くロマ{ジプシー}音楽｡バンド編成は Julia Kozakova{ヴォーカル}, Viliam Didiaš{ヴァイオリン},Geza Jonas{ツィバロン},Vojtech "Belu" Botoš{ヴィオラ},Jan Rigo{ダブルベース},Zsolt Varady{ギター}の一姫五太郎｡これが凄い｡スロバキア出身でジャズ･ヴォーカルやフラメンコを学んだという Julia のヴォーカルは情熱的で唄が弾み圧巻だし､｢これぞロマ音楽！｣と豪語したくなる職人技的音楽も圧巻｡ワンランク上のロマ音楽｡2025 作｡CPL Music)
※豊かな感性と共感をもって伝統と即興を織り交ぜ､過去と現在が親密かつ共同的に対話するような世界観を創り上げています｡愛､憧憬そしてほのかな哀愁が溶け合い､一つの調和のとれた作品として結実しています｡(バンドのサイトより)

《堀田はりいの本》



◎堀田はりい著『新・卑弥呼物語－卑弥呼と壹與の女王国』◎
～伊都国王統の卑弥呼女王の生涯と
伊都国から大和国への遷都の物語～
（本体１３５０円【税込み１４８５円】（送料無料）
◎ご注文に本書が含まれている場合は送料無料です。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆
*これまでに雷で二度パソコンに支障が出ました｡一度目は AC アダプターの故障｡二度目はネット接続不具合｡前回のリスト発行直後であわてましたが､旧パソコンはそろそろ交換時かと､たまたま新しいパソコン購入済みだったので､データの移行は割かしスムーズにできました｡最近になって USB 接続の有線 LAN アダプタでネット接続できるという話を聞いて､使ってみたら即､ネット接続ができちゃいました｡世の中便利なものがあるものです｡便利なものと言えば､

パソコン同士のデータの移行がマウスの操作で楽に行えるという「しろもの」があって、今は旧パソコンと新パソコンの二台を活用しています。新パソコンは動作が速くて助かっています。
*雷が鳴ったら、即電源を切りましょう。
*エリック・アンダースンの新作(公式発売日は 12 月 11 日)もそうですが、トム・ラッシュの新作も発売日前にレコード会社が送ってくれました。その前はアンディ・アーヴァインの新作も。レコード会社の特段の配慮に感謝。ちなみに Eric Andersen Welcome To Japan で検索したら、タムボリンのサイトがトップ。AI 様様ですね。
*50 年前、エリック・アンダースンにインタビューができる日が来るとは、夢にも思っていませんでした。人生は面白い。皆さんからも思い出話をたくさん頂きました。ありがとうございました。
*ではご注文をお待ちしています。船津



ご注文は　song@tambourine-japan.com　又は tambour@ya2.so-net.ne.jp(CC 用) へ。
ＦＡＸ：０９７７－８４－３３４３へ。